

研究主題

自分の考えをもち、共に学び合う子ども育成

～さいたま市 ど真ん中 河童の森～



埼玉県さいたま市立仲町小学校

埼玉県さいたま市浦和区常盤8丁目18番地4

はじめに

本校は、さいたま市浦和区にあり、学区内に市役所、警察署、消防署等の官庁が立ち並ぶ中にある。商店、住宅が軒を連ね、マンションの建設により飛躍的に児童数が増加している。現在、学級数29学級、児童数約1100人の大規模校である。

学区の周りには整備された緑地があり、別所沼公園や県議会の森は生活科や総合的な学習の時間の活動や児童の放課後の遊び場となっているが、十分な自然体験が得られず、古くから残る自然林の中で動植物に触れ、生態を知り、人と共生できる環境について考えることを本研究のテーマとする。

研究の概要



江戸末期より灌漑用水として用いられた高沼用水西縁（さいたま市与野区、桜区を流れる）の周りには昔の自然林に囲まれた「河童の森」が広がる。

ここを学習の拠点として5学年の総合的な学習の時間の学習や1学年の生活科の学習を構成した。これまで「河童の森」を守る「高沼の自然と水を守る会」の方たちによって保存されていることを知り、協力を得ながら次の視点において学習を進めた。

視点1：気付き・発見・かかわりと繰り返しを意識した単元計画の構成と「ひと・もの・

ことを意識した地域の教材開発

手立て① 探究的に積み上げる単元計画の工夫

- ・河童の森との出会い → 図工単元「私のお気に入りの場所」とリンクさせて
- ・河童の森にはどんな働きがあるのか、調べてみよう。

「生き物のすみか」「雨を蓄えて洪水を防ぐ」「人々が自然と触れ合える」



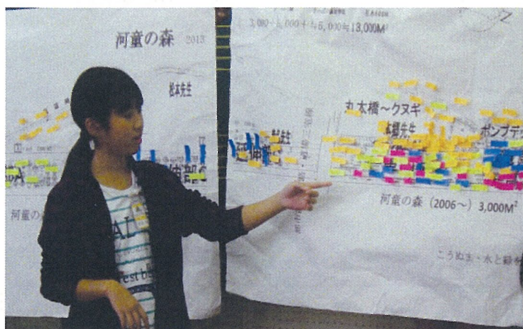
とても大切な場所

- ・街の近くの自然についての学習
「放っておくと、ゴミだらけになったり、草ぼうぼうになったりするんだ」「どうして河童の森はきれいなのかな？」
- ・河童の森をきれいにしている人たちに話を聞いてみよう。「ぼくたちにできることはなにかな。」



「高沼水と緑を守る会」の方たちから「河童の森」に生息する動植物について説明を受ける

・「河童の森」改善プロジェクトに取り組もう。



用水路 ⇒魚の棲み処を作ろう
 草原 ⇒カナヘビやコオロギの棲み処を作ろう
 樹木 ⇒樹木に木の名前を掲示し、鳥の巣箱を設置しよう
 遊歩道 ⇒小さい子が転んでも痛くないように葦の葉を敷き詰めよう
 敷地内 ⇒それぞれの場所に楽しいネーミングを付けて、楽しんでもらおう
 延伸部 ⇒水路の水を引いて、豊かな土地にしよう。



守る会のみなさんから説明を聞いて活動を開始

【葦の小道プロジェクト】 【木の表示、巣箱プロジェクト】 【魚の棲み処プロジェクト】 【虫の棲み処プロジェクト】



プロジェクトの取組 ⇒ アドバイス ⇒ 計画の実行 ⇒ 振り返り ⇒ プロジェクトの取組

繰り返しの過程でよいものを作り上げていく。

- ・ 4年生に「河童の森」での活動を伝えよう ⇒ 国語「クラスで活動報告をしよう」
- 国語科とのリンクで4年生への報告会を実施し、実際に4年生を「河童の森」へ案内する。
- 下学年に伝えることにより繰り返されるよさを児童に実感させる。

手立て② 「ひと・もの・こと」と地域に意図的にかかわらせる工夫

- 「ひと」とのかかわり 高沼水と緑を守る会の皆さん
- 「もの」とのかかわり 河童の森
- 「こと」とのかかわり 河童の森プロジェクト 草むしり大会 落ち葉拾い大会
4年生を招待する会

視点2：「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」場面における子どもにつけさせたい力（目標）の明確化と指導・評価の工夫

手立て① 課題解決をするための資質や能力を高める指導の工夫

・KJ法 ・座標軸 ・ベン図 ・プレゼンテーションの仕方

手立て② 自己の生き方につながるまとめと評価の工夫

森を育てていくことの大切さ、みんなのために考えることの大切さ、会の人たちの思い、この学習から学んだことをこれからどのように生かしていくのか等について、発表会を開く。



1 年生活科学習 【たのしいあきいっぱい】

【いきものとなかよし】



成果と課題

- 活動を繰り返し、森をつくることの大切さを考えることができた。
- 「自分のため」という考え方から、「みんなのために」を考えるられるようになってきた。
- 社会科の林業とつなげられる。
- ベン図を活用することで、みんなにとってよりよい活動とは何かを考えることができた。
- KJ法を使って、意見をまとめる方法を学ぶことができた。
- 発表の準備を通して、活動を振り返り、学んだことを整理することができた。
- 実際に活動の場があり、支えてくださる高沼会のみなさん、保護者の方の協力が得られるので、自然とのかかわりは十分にもたせることができた。
- 実際に活動する場があるが、常に安全面への配慮が必要である。
- 高沼会の人たちとの思いを学校サイドで受け留められるよう、詳細な打ち合わせをする必要があることと学校がねらいにそって計画を進めていくことが大切である。
- 度々河童の森に出かけるなど、時数的に厳しいところがある。